

日本教育社会学会 第4回若手研究セミナー 開催のお知らせ

2016年1月9日

日本教育社会学会教育部長 清水睦美

日本教育社会学会では、教育社会学研究の研鑽を積んでいる若手研究者を対象に、教育社会学の最新の知識の習得と参加者相互の新たなネットワークの構築を図ることを目的としたセミナーを、下記の要領で開催します。

- (1) 主催 日本教育社会学会
- (2) 日時 平成28年3月26日(土)13時～3月27日(日)15時40分
- (3) 場所 東京理科大学 神楽坂キャンパス
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂1-3
(JR・地下鉄飯田橋駅徒歩3分)
- (4) 参加対象 大学院生または若手研究者で教育社会学に関心のある方(非会員も可)
- (5) 定員 50名(定員になり次第、締め切り)
- (6) 参加費 1,500円(当日支払い)
参加費は、資料冊子の印刷費及び通信費等に充当します。交通費・宿泊費につきましては、各自でご準備ください。
1日目終了後、懇親会を開催します。懇親会費は別途ご用意下さい。3,500円程度を見込んでおります。
- (7) プログラム 別紙1の通り
- (8) 申込方法 参加をご希望の方は、必要事項を記入の上、申し込み期間内に、下記の参加申込先までEメールにてお申し込み下さい。
〈必要事項〉 Eメールの件名を「日本教育社会学会若手研究セミナー申し込み」とし、本文に、①氏名、②所属(大学院生は学年も)、③学会員か非会員かの別、④連絡先(電話番号とメールアドレス)、⑤研究テーマ、⑥参加を希望するプログラム(天野先生講演、ワークショップの番号)、⑦懇親会参加の有無を記入して下さい。
〈受付期間〉 平成28年1月12日(火)～2月29日(月)
〈事前準備〉 参加される方は、別紙2に示した事前準備をお願いします。
- (9) 参加申込・問い合わせ・事前準備ワークシート送信先
【日本教育社会学会第4回若手研究セミナー】(担当: 吳永鎬)
E-Mail: jses.seminar2016@gmail.com

(別紙1) 第4回若手研究セミナー プログラム

| 日 | 時 間 | 内 容 | |
|-----------------------|---------------|--|--|
| 3 月 26 日 | 12:30 ~ 13:00 | 受 付 | |
| | 13:00 ~ 14:10 | 開会挨拶 参加者自己紹介、ワークショップ準備 | |
| | 14:10 ~ 15:40 | 講演 東京大学名誉教授 天野郁夫 「私の教育社会学研究50年」 | |
| | 15:40 ~ 16:00 | 休 憩 | |
| | 16:00 ~ 16:30 | コメント 筑波大学准教授 森 直人 | |
| | 16:30 ~ 17:30 | 全体討論 | |
| | 18:00 ~ 20:00 | 懇親会 | |
| 3 月 27 日 | 10:00 ~ 11:30 | <u>ワークショップ—研究力の向上を目指して</u> 3つのテーマ別グループに分かれてグループワーク 1 質的方法と量的方法を架橋する (仮) (ファシリテーター 山田哲也:一橋大学大学院社会学研究科准教授) 2 低コストで研究を展開し、情報を発信する (仮) (ファシリテーター 内田良:名古屋大学大学院教育学研究科准教授) 3 外国社会を対象に含めた研究を行う (仮) (ファシリテーター 有田伸:東京大学社会科学研究所教授) | |
| | 11:30 ~ 12:40 | 昼 食 | |
| | 12:40 ~ 14:10 | ワークショップの続き | |
| | 14:10 ~ 14:30 | 休憩 | |
| | 14:30 ~ 15:20 | 全体での振り返り | |
| | 15:20 ~ 15:40 | 閉会式 参加者アンケート | |
| | | | |
| | | | |

※参加者事前準備

別紙2「第4回若手研究セミナー ワorkshop一覧」の「事前準備」欄の指示に従い、参加申し込み後に別途お送りするワークシートに、必要事項を記入の上、平成28年3月12日(土)までに【日本教育社会学会第4回若手研究セミナー】(jses.seminar2016@gmail.com)までお送り下さい。

(別紙2) 第4回若手研究セミナー ワークショップ一覧

| | | |
|----------|--|---|
| ワークショップ1 | テーマ | 質的方法と量的方法を架橋する (仮) |
| | ファシリテーター | 山田哲也 |
| | 内容 | 複雑な現象を多面的に捉え、実践的な含意を導き出す研究方法論として、質的・量的な社会調査法を組み合わせた混合研究法が注目されています。参加者の経験(あるいは研究構想)をもとに交流し、質的方法と量的方法をどのように組み合わせればより効果的に対象に迫れるのか、そのヒントを考えます。 |
| 事前準備 | ①研究テーマ、②明らかにしたい問い(リサーチ・クエスチョン)、③これらを解明するための方法、④質的・量的な方法の長所・短所に関する考え、⑤質的・量的な方法をどのように組み合わせているか(組み合わせようとしているのか)、⑥研究を進める上で困ったこと、悩んでいること(研究構想段階の方は、③以降は現時点で想定していることを記載してください) | |
| ワークショップ2 | テーマ | 低コストで研究を展開し、情報を発信する (仮) |
| | ファシリテーター | 内田良 |
| | 内容 | 調査研究においてはさまざまなコスト(費用、時間、人・物の準備、心的負担等)が生じます。それをできるだけ抑えた「Ⅰ.低コストな研究の方法」(例:二次分析,ドキュメント分析等 ※ここを探ることが本WSの主題)を具体的に検討します。また補足的な課題として、院生という情報発信力がまだ小さい立場において、教育系一般誌や新聞社を含むジャーナリズム、関連業界の組織・実践者や研究者から注目してもらうための「Ⅱ.低コストな情報発信の方法」(例:SNSの活用,地方小規模学会や実践系学会の活用等)を模索します。 |
| 事前準備 | 「Ⅰ.低コストな研究の方法」に関して、①低コストで調査研究を進めていると思われる学術論文を数点探し出す。②上記論文がどのような点で低コストであるのかを整理する。「Ⅱ.低コストな情報発信の方法」に関して、③調査研究の成果を低コストで発信するための方法を検討する。なお、①~③の準備内容には、適宜自身の研究活動(論文や取り組み)を含んでもよいです。 | |
| ワークショップ3 | テーマ | 外国社会を対象に含めた研究を行う (仮) |
| | ファシリテーター | 有田伸 |
| | 内容 | 外国社会を対象とした/対象に含めた研究は、社会や教育のあり方を相対的な視角から考えていく上で大きな意義をもちます。このワークショップでは、そのような研究を具体的にどう行っていけばよいのか、またその成果をどのように提示していけばよいのかを考えていきます。これから比較研究を手がけてみたいという方にも参加いただけます。 |
| 事前準備 | ①研究を行おうとするテーマ・課題、②どの社会を対象として研究を行おうと考えているか、またその理由は何か、③現在考えている研究方法、④その社会を対象とすることの意義や「面白さ」を、一般的なオーディエンスに対してどう提示しようと考えているか(可能な範囲で構いません)、⑤本ワークショップのテーマ・内容に関わるご自身の悩みや意見 | |

※事前準備については、参加申込み後、別途お送りするワークシートに、希望するワークショップで指示された内容を書いてご準備ください。

